**資料　2-1**

|  |
| --- |
| **前期基本計画の振り返りについて** |

計画全体・基本柱別の達成状況



|  |
| --- |
| **計画全体・基本柱別の達成状況** |
| **◎　指標の達成状況について 【 前期基本計画成果指標の判定基準 】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 指標とは、総合計画に掲げる各施策の取組の成果について、計画最終年度の数値目標に対するその時点の達成度で、施策の進捗度を見える形で示すものです。南島原市では、第Ⅱ期南島原市総合計画前期基本計画において155の指標を設定し、毎年度、前年度の実績により達成状況を把握し、施策の成果を管理しています。今回の審議会では前期基本計画の最終年度である令和4年度の目標に対し、令和3年度時点（平成30年～令和3年度の平均値）の達成状況を、右表の基準で判定します。 | 達成率 | 達成状況 | 判定 |
| 100％以上 | 目標値に達成した | A |
| 75％以上100％未満 | 目標値に概ね達成した | B |
| 50％以上75％未満 | 半分程度の達成状況である | C |
| 25％以上50％未満 | あまり達成されていない | D |
| 25％未満 | ほとんど取り組めていない | E |
| － | 評価不能 | － |

**【 前期基本計画指標の達成状況（基本柱別判定数） 】**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分（指標数） | A | B | C | D | E | 判定不能 |
| 基本柱1　自然環境 （6指標） | 1 | 3 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 基本柱2　郷土文化（16指標） | 5 | 2 | 3 | 4 | 2 | 0 |
| 基本柱3　産業経済（32指標） | 8 | 9 | 5 | 7 | 2 | 1 |
| 基本柱4　健康福祉（29指標） | 10 | 14 | 3 | 2 | 0 | 0 |
| 基本柱5　人づくり（20指標） | 3 | 3 | 4 | 7 | 2 | 1 |
| 基本柱6　安全安心（13指標） | 5 | 6 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 基本柱7　基盤整備（19指標） | 4 | 10 | 2 | 0 | 1 | 2 |
| 基本柱8　協働行政（20指標） | 9 | 5 | 4 | 1 | 1 | 0 |
| 計　　（155指標） | 45 | 52 | 21 | 24 | 8 | 5 |

 |
| **【 前期基本計画指標の達成状況（H30～R3評価の平均） 】** | **【 基本柱別達成率75％以上（判定A・B）の状況 】**

|  |
| --- |
| ◎ 前期基本計画において設定した155の指標の達成状況について、判定A（目標値を100％以上達成している項目）は45項目（29.0％）でした。◎ 基本柱別達成率75％以上（判定A・B）の状況をみると、「2.郷土文化」、「3.産業経済」、「5.人づくり」の３つの基本柱について、全体の達成平均を下回る結果となりました。 |

 |
| 　 |

基本柱1



|  |
| --- |
| **基本柱１　自然環境** |
|

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 指標番号 | 指　　　　標 | 単位 | 基準値（H28） | 令和4年度目標値 | 平成30年度～令和3年度平均 | 評価 | 評価の理由 |
| 実績値 | 達成率 |
| 1 | 保安林の面積 | ha | 1,022.7 | 1,028.7 | 1,036.5 | 100.8 | A | 被災の恐れがある山林や住宅を守るための治山工事を保安林に指定し、行ったことによる。 |
| 2 | 1世帯当たりのCO2排出量（年間） | ｔ/年度 | 12.2（H26） | 12.2 | - | - | - | 実績は令和元年度まで。令和2年度以降は県による市町別二酸化炭素排出量実績公表がない。 |
| 3 | 市民清掃への自治会参加率 | ％/年度 | 96.0 | 99.0 | 46.5 | 47.0 | D | 令和2年度、3年度はコロナ禍による実施中止のため。 |
| 4 | 狂犬病予防注射接種率 | ％/年度 | 60.0 | 70.0 | 64.2 | 91.7 | B | 周知啓発は行っているものの、すべての飼い主の理解を得るまでには至っていない。 |
| 5 | 南島原市のごみ排出量 | ｔ/年度 | 16,056.0 | 14,251.0 | 16,299.0 | 91.6 | B | ゴミ排出量がここ数年微増。コロナ禍による在宅機会増加も一因。 |
| 6 | 不法投棄者の指導割合 | ％/年度 | 40.0 | 57.0 | 45.8 | 80.3 | B | 環境保全推進委員による週3回程度の巡回を行ったが、目標達成に至らなかった |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 基本柱１　自然環境：評価構成比 |  | ◎ 基本柱全体としては、評価A、評価B合計で66.7％でした。◎ 1世帯当たりのCO2排出量は、令和2年度以降は県による公表が行われていないため、判定不能でした。◎ ごみ排出量は、資料2－2で示しているように、ここ数年微増傾向です。 |
| 目標値 | 実績値（件） | 構成比（％） | A+B判定（％） |  |
| A(達成率100％以上) | 1 | 16.7 | 66.7  |  |
| B(達成率75％以上～100％未満) | 3 | 50.0 |  |
| C(達成率50％以上～75％未満) | 0 | 0.0 |  |  |
| D(達成率25％以上～50％未満) | 1 | 16.7 |  |  |
| E(達成率25％未満) | 0 | 0.0 |  |  |
| 判定不能 | 1 | 16.7 |  |  |
|  | 6 | 100.0 |  |  |
|  |  |  |  |  |

　 |

基本柱2



|  |
| --- |
| **基本柱２　郷土文化** |
|

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 指標番号 | 指　　　　標 | 単位 | 基準値（H28） | 令和4年度目標値 | 平成30年度～令和3年度平均 | 評価 | 評価の理由 |
| 実績値 | 達成率 |
| 7 | 史跡原城跡の公有化率 | ％/年度時点累計 | 59.2 | 70.0 | 66.3 | 94.6 | B | 耕作中の農地や相続手続きが必要な案件があったため、当初計画どおり進まなかった。 |
| 8 | 資料館等入館者数（口之津歴史民俗資料館） | 人/年度 | 7,243.0 | 13,000.0 | 3,913.3 | 30.1 | D | 周知広報の不足や企画展等の魅力不足等が原因と推測。令和3年度はコロナ禍による入館者の減。 |
| 9 | 調査成果等報告会 | 回/年度 | 1.0 | 1.0 | 0.8 | 75.0 | B | 令和2年度はコロナ禍により中止したため。 |
| 10 | 世界遺産市民協働会議の活動回数 | 回/年度 | 6.0 | 16.0 | 11.8 | 73.4 | C | 令和2年度、3年度はコロナ禍による活動制限により活動回数が減じたため、平均してC評価 |
| 11 | 有馬キリシタン遺産記念館の入館者数 | 人/年度 | 14,425.0 | 26,000.0 | 12,295.0 | 47.3 | D | 世界遺産登録初年度（H30）は大幅達成したが、その後は減少に転じた。R2以降はコロナ禍による閉館の影響あり。 |
| 12 | 原城跡来訪者数 | 千人/年 | 147.0 | 200.0 | 23.0 | 11.5 | E | 平成30年から観光統計の方法が変更され、本指標の目標と実績の乖離がある。現行の統計方法では、世界遺産登録初年度（H30）は増加したが、その後は減少に転じ、令和2年以降はコロナ禍による大幅減が続いている。 |
| 13 | 北村西望賞教育美術展の出展数 | 点 | 343.0 | 370.0 | 510.5 | 138.0 | A | 学校教育の一環として継続して実施しているため。 |
| 14 | 文化団体及び個人の全国大会等の出場者数 | 団体（人）/年度 | 31（66） | 25（50） | 14.5 | 29.0 | D | 令和元年度末ごろからコロナ禍による各種大会が中止になったことによる。 |
| 15 | 舞台芸術イベントの参加者数（1公演あたり） | 人/年度 | 467.0 | 480.0 | 294.8 | 61.4 | C | 令和2年度はコロナ禍による全イベント中止。令和3年度は状況を見ながら一部開催したため。 |
| 16 | 子どもの芸術鑑賞機会への参加率 | ％/年度 | 64.0 | 70.0 | 50.0 | 71.4 | C | 令和2年度、令和3年度ともに、コロナ禍によりイベントを全て中止したため。 |
| 17 | アートビレッジ・シラキノ関連催事参加人数 | 人/年度 | 0.0 | 1,000.0 | 1,148.5 | 114.9 | A | 令和２年度はコロナ禍により催事の一部を中止したが、小規模催事が主であるためコロナ禍の影響を受けにくかった。 |
| 18 | 伝承文化保存継承団体の活動者数 | 人/年度 | 217.0 | 250.0 | 259.5 | 103.8 | A | 団体の活動者数が増加した。 |
| 19 | 市民イベントへの来訪者数 | 人/年度 | 91,600.0 | 94,000.0 | 46,587.5 | 49.6 | D | 令和2年度はコロナ禍により全てのイベントを中止。令和3年度は時機を見て開催したイベントがあった。 |
| 20 | コミュニティ活動支援団体数 | 団体/年度 | 1.0 | 1.0 | 1.3 | 125.0 | A | 各年度基本的に1件の支援、令和2年度に2件の支援を行ったため、大幅達成となった。 |
| 21 | インターンシップ受入れ人数 | 人/年度 | 0.0 | 25.0 | 1.0 | 4.0 | E | インターンシップの受入事業者が少なく、参加者も少なかった。 |
| 22 | 移住者数 | 人/年度 | 15.0 | 20.0 | 68.0 | 340.0 | A | 県事業との連携や、移住検討者とのSNSを利用した連絡を密にしたことによる。 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 基本柱２　郷土文化：評価構成比 |  | ◎ 基本柱全体としては、評価A、評価Bの合計が43.8％と、厳しい達成状況です。◎ 集客型の指標が多いこともあって、コロナ禍により中止等となった取組や、観光需要の低迷などにより、達成度評価が低くなる指標がありましした。特に、有馬キリシタン遺産記念館入館者数や市民イベント開催に関しては、極めて悪い結果となりました。◎ 一方で、移住者数に関しては、長崎県との連携事業や市独自の取組の結果、順調な伸びとなっています。 |
| 目標値 | 実績値（件） | 構成比（％） | A+B判定（％） |  |
| A(達成率100％以上) | 5 | 31.3 | 43.8  |  |
| B(達成率75％以上～100％未満) | 2 | 12.5 |  |
| C(達成率50％以上～75％未満) | 3 | 18.8 |  |  |
| D(達成率25％以上～50％未満) | 4 | 25.0 |  |  |
| E(達成率25％未満) | 2 | 12.5 |  |  |
| 判定不能 | 0 | 0.0 |  |  |
|  | 16 | 100.0 |  |  |
|  |  |  |  |  |

　 |

基本柱3



|  |
| --- |
| **基本柱３　産業経済** |
|

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 指標番号 | 指　　　　標 | 単位 | 基準値（H28） | 令和4年度目標値 | 平成30年度～令和3年度平均 | 評価 | 評価の理由 |
| 実績値 | 達成率 |
| 23 | ほ場整備率 | ％/年度時点累計 | 22.2（H27） | 25.2 | 25.7 | 101.8 | A | 計画どおりの事業進捗を図ったため。 |
| 24 | 認定農道数 | 本/年度時点累計 | 125.0 | 132.0 | 125.8 | 95.3 | B | 計画していた一部の農道整備を中止、延期したことによる。 |
| 25 | 適切な維持管理を行う林道 | 本/年度 | 12.0 | 12.0 | 12.0 | 100.0 | A | 地元の協力により適切な維持管理が行われている。 |
| 26 | 新規就農者数 | 人/年度 | 20.0 | 26.0 | 35.0 | 134.6 | A | 市外からの移住による就農者が増加したことによる。 |
| 27 | 認定農業者数（累計） | 人/年度時点累計 | 1,063.0 | 1,010.0 | 971.3 | 96.2 | B | 農業の担い手の高齢化による離農と、若手新規就農者の減少が要因で、目標値を達成できなかった。 |
| 28 | 耕作放棄地の解消 | ha/年度 | -56.0 | 10.0 | 15.3 | 152.5 | A | 農地パトロール等の成果に基づき、耕作放棄地の解消に努めた。 |
| 29 | 担い手への農地の利用集積・集約化 | ha/年度 | 65.0 | 50.0 | 51.8 | 103.5 | A | 計画どおりの利用集積が図られた。 |
| 30 | 有害鳥獣による農作物被害額 | 千円/年度 | 29,346.0 | 20,000.0 | 5,647.5 | 495.2 | A | 地域や地元猟友会との連携により、平成28年度と比較して農作物被害額が大幅に減少している。 |
| 31 | 農産物ブランド化推進事業件数 | 件/年度 | 3.0 | 5.0 | 2.3 | 45.0 | D | 農産物ブランド化を行う事業者が当初予定より少なかったため。 |
| 32 | 収穫体験事業数 | 件/年度 | 2.0 | 3.0 | 1.3 | 41.7 | D | 年1回のイベントしか開催できなかったため。 |
| 33 | 有機JAS登録認定農家数 | 人/年度 | 28.0 | 33.0 | 20.3 | 61.4 | C | 病害虫発生への対応で農薬使用したため有機JAS認証の対象から外れたことや、農家の高齢化により手間がかかる有機農業を辞めた農業者があったため。 |
| 34 | 農業用廃プラスチック処理量 | ｔ/年度 | 1,553.0 | 1,688.0 | 1,467.8 | 87.0 | B | 従来と比較して回収回数を増やす等の取り組みにより、一定程度の成果があった。 |
| 35 | 多面的機能支払交付金に取組む団体 | 団体/年度 | 25.0 | 28.0 | 17.3 | 61.6 | C | 令和元年度に広域活動組織の設立により活動組織の統合が進み、団体数が減少したことによる。 |
| 36 | 漁港及び漁港海岸の長寿命化整備率 | ％/年度時点累計 | 22.0 | 90.0 | 34.0 | 37.8 | D | 地元調整や補助事業の採択状況などにより、予定より整備進捗が遅れたため。 |
| 37 | 藻場・干潟の保全活動組織への参加者 | 人/年度 | 670.0 | 700.0 | 726.5 | 103.8 | A | 地域の積極的な参加により、目標を達成した。 |
| 38 | 水産施設整備件数 | 件/年度 | 2.0 | 3.0 | 2.8 | 91.7 | B | 地元からの要望に対応。令和2年度のみ目標3件に対して実績2件となったことによる。 |
| 39 | 加工（ブランド）品の製作数量 | 品/年度時点累計 | 0.0 | 4.0 | 0.0 | 0.0 | E | 現在、低利用魚種による試作品段階のため、商品化には至っていない。 |
| 40 | 中核的担い手認定者数 | 人/年度時点累計 | 0.0 | 7.0 | 1.8 | 25.0 | D | 令和2年度までは目標を達成していたが、後継者不足により令和3年度以降未達成。 |
| 41 | 増殖対象魚（イカ・タコ）の陸揚量 | ｔ/年度 | 200（H27） | 220.0 | 120.0 | 54.5 | C |  漁業資源の減少による。 |
| 42 | 海藻類の養殖縄増加本数 | 本（対前年度比） | 0.0 | 400.0 | 167.3 | 41.8 | D | 令和2年度までは順調に推移していたが、令和3年度は頭打ち状態となった。 |
| 43 | 漁獲量 | ｔ/年度 | 1,800.0 | 1,800.0 | 1,568.5 | 87.1 | B | 漁業資源の減少による。 |
| 44 | 漁業所得向上率 | ％/年度 | 100.0 | 114.0 | 88.0 | 77.2 | B | 令和3年度からコロナ禍による魚類の需要の減少と原油高騰による経費増加が重なったため。 |
| 45 | ブランド認定商品数（累計） | 品/年度時点累計 | 47.0 | 130.0 | 136.3 | 104.8 | A | 令和2年度から「南島原市の推奨品」として積極的に取り組んだ結果。 |
| 46 | そうめんのPR（メディア等）実施回数 | 回/年度 | 25.0 | 30.0 | 22.5 | 75.0 | B | 目標値には達しなかったが、CM等メディアを活用したPRを積極的に行った。 |
| 47 | そうめん出荷額 | 億円/年度 | 59.0 | 75.0 | 60.3 | 80.3 | B | 販売単価は上昇しているものの、生産者の減少により生産量も減少傾向にある。 |
| 48 | 観光客数 | 千人/年 | 1,534.0 | 2,100.0 | 818.5 | 39.0 | D | 令和2年度以降、コロナ禍による観光客数が大幅に減少したため。 |
| 49 | 外国人観光客数 | 人/年 | 10,127.0 | 25,000.0 | 11,624.0 | 46.5 | D | 令和2年度からのコロナ禍と、令和3年度のみずなし本陣閉鎖による外国人計測方法変更による。 |
| 50 | 九州オルレ南島原コース踏破者数 | 人/年度 | 3,539.0 | 6,000.0 | 3,612.3 | 60.2 | C | 令和2年度からのコロナ禍による愛好者の外出自粛による。 |
| 51 | スルーガイド数 | 人/年度時点累計 | 22.0 | 50.0 | 30.0 | 60.0 | C | ガイドの高齢化に加え、新規ガイド養成のための講座が開催できなかったことによる。 |
| 52 | 民泊受入軒数 | 軒/年度時点累計 | 172.0 | 200.0 | 163.3 | 81.6 | B | 民泊家庭の高齢化に加え、令和2年度からのコロナ禍により民泊受け入れを中止している影響。 |
| 53 | サテライトオフィス企業誘致数 | 件/年度時点累計 | 0.0 | 4.0 | 0.0 | 0.0 | E | サテライトオフィス支援制度は構築したが、周知、誘致不足のため達成できなかった。 |
| 54 | 新規就業者数（商工業） | 人/年度 | 27.0 | 22.0 | - | - | - | H30年度以降、新規就業者激励会が廃止され、他に把握できる統計調査がなくなり、計測不能。 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 基本柱３　産業経済：評価構成比 |  | ◎ 基本柱としては、評価A、評価Bの合計が53.1％と厳しい達成状況です。◎ 特に農水産業に関するブランド化が進んでいない一方、商工業のブランド化は成果が出ています。◎ 水産業に関する後継者不足が顕著です。◎ 観光に関しては、令和2年度以降のコロナ禍により、極めて悪い評価となりました。 |
| 目標値 | 実績値（件） | 構成比（％） | A+B判定（％） |  |
| A(達成率100％以上) | 8 | 25.0 | 53.1  |  |
| B(達成率75％以上～100％未満) | 9 | 28.1 |  |
| C(達成率50％以上～75％未満) | 5 | 15.6 |  |  |
| D(達成率25％以上～50％未満) | 7 | 21.9 |  |  |
| E(達成率25％未満) | 2 | 6.3 |  |  |
| 判定不能 | 1 | 3.1 |  |  |
|  | 32 | 100.0 |  |  |
|  |  |  |  |  |

　 |

基本柱4



|  |
| --- |
| **基本柱４　健康福祉** |
|

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 指標番号 | 指　　　　標 | 単位 | 基準値（H28） | 令和4年度目標値 | 平成30年度～令和3年度平均 | 評価 | 評価の理由 |
| 実績値 | 達成率 |
| 55 | 小児生活習慣病予防教室の開催日数 | 回/年度 | 5.0 | 8.0 | 8.0 | 100.0 | A | 平均達成率は100％であるが、令和3年度はコロナ対策のため教室を実施していない。 |
| 56 | フッ化物洗口を実施している施設の割合 | ％/年度 | 77.8 | 100.0 | 93.7 | 93.7 | B | 一部フッ化物洗口に取り組まない方針としている施設があるため（制度上強制するものではない）。 |
| 57 | 特定健康診査受診率 | ％/年度 | 42.7 | 60.0 | 40.6 | 67.6 | C | 令和元年度までは平成28年度より向上していたが、コロナ禍により受診を控える方が増加した。 |
| 58 | 特定保健指導実施率 | ％/年度 | 68.6 | 72.0 | 57.5 | 79.9 | B | 受診勧奨を進めているものの、若い世代の受診率が低い。 |
| 59 | 幼児健康診査受診率（1歳6か月児） | ％/年度 | 97.8 | 100.0 | 94.2 | 94.2 | B | 令和元年度まで95％で推移。令和2年度以降コロナ対策で健診の機会を変更したため受診率低下。 |
| 60 | 乳児相談参加率 | ％/年度 | 96.3 | 98.0 | 79.4 | 81.0 | B | 令和元年度まで高い達成率。令和2年度以降コロナ対策で健診の機会を変更したため受診率低下。 |
| 61 | 休日診療が受けられる医療機関数 | か所/年度時点 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 100.0 | A | 医師会と協力し、医療機関数を維持した。 |
| 62 | 第二次救急医療が受けられる医療機関数 | か所/年度時点 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 100.0 | A | 医療機関の協力により、医療機関数を維持した。 |
| 63 | 後発医薬品数量シェア目標値 | ％/年度 | 67.9 | 84.0 | 77.5 | 92.2 | B | 医師会を通じてジェネリック利用のお願いをした。 |
| 64 | 介護予防支援事業（年間延べ人数） | 人/年度 | 3,985.0 | 4,200.0 | 1,974.5 | 47.0 | D | 令和元年度まで一定の活動を行っていたが、令和２年度以降コロナ対策のため活動を制限したため。 |
| 65 | 成年後見制度相談件数 | 件/年度 | 1.0 | 2.0 | 2.0 | 100.0 | A | 年度間で増減はあるが、適切に制度運用を行った。 |
| 66 | 要支援・要介護認定者数 | 人/年度時点累計 | 4,124.0 | 4,080.0 | 3,942.8 | 96.6 | B | 認定申請者数が減少したことによる。 |
| 67 | 介護予防自主グループ活動者数 | 人/年度 | 1,452.0 | 1,600.0 | 1,503.5 | 94.0 | B | 予定どおり自主グループの活動支援を実施した。 |
| 68 | 老人クラブ連合会入会率 | ％/年度時点 | 48.4 | 53.0 | 40.0 | 75.5 | B | 就労を続ける高齢者が増加し、相対的に老人クラブ加入者が減少している。 |
| 69 | シルバー人材センター会員数 | 人/年度時点累計 | 311.0 | 360.0 | 331.0 | 91.9 | B | 就労を続ける高齢者が増加しているため、シルバー人材センターの会員増にはつながらなかった。 |
| 70 | 高齢者・障害者交通費助成券交付率 | ％/年度時点 | 51.7 | 56.0 | 47.1 | 84.2 | B | 希望者に対して交付を行った。令和２年度以降はコロナ禍による外出自粛が影響している。 |
| 71 | 自立支援給付サービス利用決定者数 | 人/年度時点 | 670.0 | 700.0 | 715.5 | 102.2 | A | 高齢者はグループホーム利用者の増、障がい児は放課後等デイサービスの利用者増による。 |
| 72 | 日常生活用具給付決定件数 | 件/年度 | 1,351.0 | 1,500.0 | 1,455.5 | 97.0 | B | 平成28年度時点と比較し、ストマ用具等の申請の増により、決定件数は増加している。 |
| 73 | 障害者相談支援事業による相談件数 | 件/年度 | 6,201.0 | 6,300.0 | 5,216.3 | 82.8 | B | 平成28年度時点と比較すれば、相談件数は減少している。 |
| 74 | 障がい者の集い参加者数 | 人/年度 | 429.0 | 470.0 | 342.3 | 72.8 | C | 年々減少が続いており、令和3年度はコロナ禍により参加者が一時減少している。 |
| 75 | 障害者就労・支援センター支援による就業者数 | 人/年度 | 7.0 | 10.0 | 14.0 | 140.0 | A | 出張相談会や企業とのマッチングの成果によるもの。 |
| 76 | 手話通訳者登録数 | 人/年度時点累計 | 11.0 | 16.0 | 14.0 | 87.5 | B | 手話奉仕員養成講座、手話通訳養成講座により、一定数の通訳者は確保した。 |
| 77 | 乳児家庭への訪問率 | ％/年度 | 95.0 | 96.0 | 96.3 | 100.3 | A | 新型コロナ対策として電話相談等の受付も行ったことによる。 |
| 78 | ブックスタート参加者数 | ％/年度 | 94.3 | 97.0 | 93.3 | 96.2 | B | コロナ禍により対面での実施が困難になった。郵送での対応は行っている。 |
| 79 | 子育て支援センター利用者数 | 人/年度 | 23,578.0 | 24,000.0 | 16,316.0 | 68.0 | C | 新型コロナ対策でイベントを中止したため参加者が減少した。電話相談が主になったことにもよる。 |
| 80 | ひとり親家庭等医療費助成率 | ％/年度 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | A | 全ての対象者に対し支援を行った。 |
| 81 | 母子自立支援プログラム策定事業登録者の就業率 | ％/年度 | 100.0 | 100.0 | 31.3 | 31.3 | D | ひとり親家庭の条件にあった就労先が市内に少なく、就労につながるまでに至らなかった。 |
| 82 | 就労支援事業の参加率 | ％/年度 | 65.0 | 65.0 | 83.3 | 128.1 | A | ケースワーカー（地区担当員）による就労自立に向けた支援が結実したため。 |
| 83 | 就労支援事業者の就労率 | ％/年度 | 53.8 | 63.0 | 91.5 | 145.2 | A | 被保護者就労支援員によるハローワークと連携した就労支援が結実したため。 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 基本柱４　健康福祉：評価構成比 |  | ◎ 基本柱としては、評価A、評価Bの合計が82.8％と概ね達成している状況です。◎ 一部の指標では新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から事業の中止・延期を行ったため、達成率が悪いものがありました。 |
| 目標値 | 実績値（件） | 構成比（％） | A+B判定（％） |  |
| A(達成率100％以上) | 10 | 34.5 | 82.8  |  |
| B(達成率75％以上～100％未満) | 14 | 48.3 |  |
| C(達成率50％以上～75％未満) | 3 | 10.3 |  |  |
| D(達成率25％以上～50％未満) | 2 | 6.9 |  |  |
| E(達成率25％未満) | 0 | 0.0 |  |  |
| 判定不能 | 0 | 0.0 |  |  |
|  | 29 | 100.0 |  |  |
|  |  |  |  |  |

　 |

基本柱5



|  |
| --- |
| **基本柱５　人づくり** |
|

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 指標番号 | 指　　　　標 | 単位 | 基準値（H28） | 令和4年度目標値 | 平成30年度～令和3年度平均 | 評価 | 評価の理由 |
| 実績値 | 達成率 |
| 84 | 放課後児童クラブ数 | クラブ/年度時点累計 | 24（H29） | 25.0 | 25.0 | 100.0 | A | 平成30年度は未達成だったが、令和元年度に2クラブ、令和2年度に１クラブ新設されたため。 |
| 85 | いのちの学習を開催する中学校数 | 校/年度 | 8.0 | 8.0 | 6.3 | 78.1 | B | 市内8中学校1回実施する予定であったが、コロナ禍で実施を見送った学校があったため。 |
| 86 | 小中学生スポーツ大会出場数 | 人/年度 | 43.0 | 55.0 | 23.0 | 41.8 | D | 令和元年度までは一定数の出場があっていたが、令和2年度以降コロナ禍で各大会が中止となった。 |
| 87 | 英検5級新規取得者 | 人/年度 | 0.0 | 80.0 | 71.8 | 89.7 | B | 取得に向けたの取組の結果、令和２年度以降に大幅な取得者増につながった。 |
| 88 | 英検3級新規取得者 | 人/年度 | 47.0 | 110.0 | 96.8 | 88.0 | B | 取得に向けた取組の結果、一定数の取得につながった。 |
| 89 | 学校給食調理場 | 施設/年度時点 | 7.0 | 1.0 | 5.5 | 550.0 | A | 当初の計画より供用開始が遅れたものの、令和3年度に新施設が完成した。 |
| 90 | 市内小学校の数（分校も含む） | 施設/年度時点 | 17.0 | 15.0 | 16.5 | 110.0 | A | 予定どおり、市内小学校の統合が終了した。 |
| 91 | 奨学資金償還補助金交付人数 | 人/年度 | 5.0 | 10.0 | 4.3 | 42.5 | D | 制度周知に努めたものの、条件に合致する対象者が多くなかったため。 |
| 92 | 南島原市文化協会連携講座 | 講座/年度 | 36.0 | 70.0 | 8.0 | 11.4 | E | 文化協会連携講座を、平成30年度までで終了したため。 |
| 93 | 各講座への参加者数 | 人/年度 | 34.0 | 60.0 | 37.8 | 62.9 | C | 令和2年度以降、新型コロナ感染防止対策に伴う開催中止、及び定員縮小を行ったため。 |
| 94 | フォーラム参加者数 | 人/年度 | 200.0 | 300.0 | 111.8 | 37.3 | D | 令和2年度以降、新型コロナ感染防止対策のため地域活性化フォーラムの開催を中止したため。 |
| 95 | 放課後子ども教室児童参加率 | ％/年度 | 31.0 | 40.0 | 20.0 | 50.0 | C | 令和2年度は新型コロナ感染防止のため全中止。令和3年度は状況を注視しながら一部実施。 |
| 96 | 通学合宿 | 地区/年度 | 3.0 | 7.0 | 1.8 | 25.0 | D | 令和2年度以降、新型コロナ感染防止の観点から全て中止。 |
| 97 | フィットネススクール参加者数 | 人/年度 | 180.0 | 200.0 | 43.5 | 21.8 | E | 平成30年度以降参加者が伸び悩んでいたが、令和2年度以降、コロナ感染防止のため全て中止。 |
| 98 | 市民スポーツ大会参加者数 | 人/年度 | 2,300.0 | 2,400.0 | 1,347.5 | 56.1 | C | 令和2年度以降、新型コロナ感染防止の観点から一部競技を中止したことによる。 |
| 99 | 原城マラソン大会参加者数 | 人/年度 | 1,900.0 | 2,000.0 | 943.0 | 47.2 | D | 令和2年度以降、新型コロナ感染防止の観点から中止している。 |
| 100 | ひまわりウォーク参加者数 | 人/年度 | 100.0 | 130.0 | - | - | - | 平成30年度から総合型地域スポーツクラブＴＥＡＭひまわりとスポーツ推進委員が連携する別事業として再編したため、本事業としての実績はない。 |
| 101 | 国内姉妹都市との交流者数 | 人/年度 | 30.0 | 30.0 | 19.5 | 65.0 | C | 令和元年度末からのコロナ禍のため、与論島、小豆島との交流を中止しているため。 |
| 102 | 民泊利用者数 | 人/年度 | 6,293.0 | 13,000.0 | 6,135.5 | 47.2 | D | 令和元年度末からのコロナ禍のため、修学旅行の受入を中止したことによる。 |
| 103 | 海外友好都市との交流者数（中学生の交流） | 人/年度 | 4.0 | 8.0 | 3.0 | 37.5 | D |  新型コロナ感染拡大防止のため、令和２年度から海外派遣事業を見送っているため。 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 基本柱５　人づくり：評価構成比 |  | ◎ 基本柱全体としては、評価A、評価Bの合計が30％と、極めて厳しい達成状況です。◎ 学校教育の分野は概ね目標を達成していますが、社会教育や社会体育の分野では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和２年度以降、講演会や各種スポーツ大会の中止や規模縮小が続いており、目標を達成できない指標が多くありました。 |
| 目標値 | 実績値（件） | 構成比（％） | A+B判定（％） |  |
| A(達成率100％以上) | 3 | 15.0 | 30.0  |  |
| B(達成率75％以上～100％未満) | 3 | 15.0 |  |
| C(達成率50％以上～75％未満) | 4 | 20.0 |  |  |
| D(達成率25％以上～50％未満) | 7 | 35.0 |  |  |
| E(達成率25％未満) | 2 | 10.0 |  |  |
| 判定不能 | 1 | 5.0 |  |  |
|  | 20 | 100.0 |  |  |
|  |  |  |  |  |

　 |

基本柱6



|  |
| --- |
| **基本柱６　安全安心** |
|

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 指標番号 | 指　　　　標 | 単位 | 基準値（H28） | 令和4年度目標値 | 平成30年度～令和3年度平均 | 評価 | 評価の理由 |
| 実績値 | 達成率 |
| 104 | 広報誌等での啓発回数 | 回/年度 | 6.0 | 7.0 | 6.3 | 89.3 | B | 4年間の平均達成度評価はBだが、年次計画に基づき目標どおり実施している。 |
| 105 | 自主防災組織率 | ％/年度時点累計 | 95.3 | 100.0 | 96.0 | 96.0 | B | 一部地区で自主防災組織の設立に二の足を踏んでいる自治会がある。 |
| 106 | 災害復旧支援に関する協定 | 件/年度時点累計 | 0.0 | 2.0 | 4.3 | 212.5 | A | 民間団体と災害時における支援活動に関する協定締結を進めた。 |
| 107 | 農地海岸保全施設整備率 | ％/年度時点累計 | 55.0 | 100.0 | 95.3 | 95.3 | B | 4年間の平均達成度評価はBであるが、令和3年度をもって事業が完成した。 |
| 108 | 道路冠水 | 箇所/年度 | 3.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | A | 計画期間内で道路冠水は発生しなかった。 |
| 109 | 消防水利数 | 基/年度時点累計 | 930.0 | 955.0 | 947.5 | 99.2 | B | 4年間の平均達成度評価はBであるが、各年度計画どおり耐震性貯水槽（防火水槽）を整備した。 |
| 110 | 防犯連絡所数 | 箇所/年度時点 | 428.0 | 428.0 | 427.0 | 99.8 | B | 各自治会に1か所。4年間の平均達成度評価はBなのは、平成30年度に自治会数が1減じたため。 |
| 111 | 交通事故による死傷者数 | 人以下/年度 | 190.0 | 170.0 | 103.5 | 164.3 | A | 交通安全に関わる各種団体の協力により、平成28年度と比較し、大幅に死傷者が減少した。 |
| 112 | 交通安全講習会参加者数 | 人/年度 | 32.0 | 62.0 | 24.8 | 39.9 | D | 講習会開催回数を増やす目標であったが、対象を絞った講習会開催としたことによる。 |
| 113 | 広報誌等による啓発回数 | 件/年度 | 6.0 | 7.0 | 6.0 | 85.7 | B | 広報紙掲載回数を増やす目標であったが、年６回の啓発としたため。 |
| 114 | 広報紙での啓発回数 | 回/年度 | 12.0 | 12.0 | 12.0 | 100.0 | A | 消費者被害防止に関する啓発を毎月行った。 |
| 115 | 消費生活出前講座の開催回数 | 回/年度 | 10.0 | 12.0 | 5.8 | 47.9 | D | コロナ禍により、市民や団体からの出前講座開催依頼が減少したことによる。 |
| 116 | 若者向け講座や授業支援等の実施回数 | 回/年度 | 1.0 | 2.0 | 6.8 | 337.5 | A | 令和２年度は新型コロナ感染防止のため中止したが、中学校での開催を予定以上に実施した。 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 基本柱６　安全安心：評価構成比 |  | ◎ 基本柱全体としては、評価A、評価Bの合計が84.4％と、概ね達成の状況です。◎ 防災・交通の分野では、計画どおり事業に取り組んだ結果、目標を概ね達成しています。◎ 一方、講習会や講演会の開催を指標としていた取組は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和2年度以降中止や規模縮小をしたため、達成度が悪い状況となっています。 |
| 目標値 | 実績値（件） | 構成比（％） | A+B判定（％） |  |
| A(達成率100％以上) | 5 | 38.5 | 84.6  |  |
| B(達成率75％以上～100％未満) | 6 | 46.2 |  |
| C(達成率50％以上～75％未満) | 0 | 0.0 |  |  |
| D(達成率25％以上～50％未満) | 2 | 15.4 |  |  |
| E(達成率25％未満) | 0 | 0.0 |  |  |
| 判定不能 | 0 | 0.0 |  |  |
|  | 13 | 100.0 |  |  |
|  |  |  |  |  |

　 |

基本柱7



|  |
| --- |
| **基本柱７　基盤整備** |
|

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 指標番号 | 指　　　　標 | 単位 | 基準値（H28） | 令和4年度目標値 | 平成30年度～令和3年度平均 | 評価 | 評価の理由 |
| 実績値 | 達成率 |
| 117 | 市道整備の施工路線数 | 本/年度 | 58.0 | 10.0 | 34.8 | 77.0 | B | 地元調整や財源調整等により年度別では目標施工数には至らなかった。 |
| 118 | 市道整備の施工延長 | ｍ/年度 | 6,000.0 | 1,000.0 | 3,889.0 | 87.0 | B | 地元調整や財源調整、これに関連する繰越事業の発生等により、令和３年度の施工延長が少なくなったため。 |
| 119 | 市道の舗装率 | ％/年度末時点 | 94.2 | 94.4 | 94.8 | 100.4 | A | 維持工事を含む道路整備事業の進捗による。 |
| 120 | 市道の改良率 | ％/年度末時点 | 47.5 | 48.2 | 48.8 | 101.1 | A | 道路整備事業の進捗による。 |
| 121 | 国・県への要望回数（三県架橋） | 回/年度 | 5.0 | 5.0 | 3.0 | 60.0 | C | 目標は5回であるが、期成会を通じた要望は平成30年度から3回で進められている。 |
| 122 | 口之津ターミナルを経由する系統での利用者数 | 人/年度 | 919,000 | 920,000 | 776,167 | 84.4 | B | 島原鉄道によるダイヤ改正による減便に加え、令和2年度からはコロナ禍による利用者減が影響。 |
| 123 | 市営住宅建設事業（H28からの累計） | 棟/年度末時点累計 | 0.0 | 1.0 | - | - | - | 令和4年度に１件の建替え事業を終える予定。令和3年度時点では実績なし。 |
| 124 | 住宅性能向上リフォーム支援事業 | 件/年度 | 12.0 | 15.0 | 8.8 | 58.3 | C | 年間15件を目標としていたが、利用条件に合致する施工内容が目標を下回ったことによる。 |
| 125 | 公園施設整備事業 | 件/年度 | 1.0 | 1.0 | 1.5 | 150.0 | A | 年間1件を予定していたが、トイレ洋式化等前倒しで実施したため。 |
| 126 | 景観形成推進事業（28年からの累計） | 件/年度末時点累計 | 4.0 | 5.0 | 4.0 | 80.0 | B | 事業の対象が県の景観資産に掲載されることが条件であり、窓口が狭いため目標に達しなかった。 |
| 127 | 危険空家除去支援事業 | 件/年度 | 8.0 | 20.0 | 15.5 | 77.5 | B | 危険家屋評価100点以上が対象であり、基準に満たない家屋の除却は本実績計上対象外としている。 |
| 128 | 児童が参加した取り組み実施件数 | 件/年度 | 0.0 | 16.0 | 3.8 | 23.4 | E | 令和3年度以降、市内小学校での取組を中止している。 |
| 129 | 上水道の有収率 | ％/年度時点 | 75.8 | 76.3 | 72.6 | 95.1 | B | 平成30年度から簡易水道を上水道へ統合したため、有収率が減少した。 |
| 130 | 簡易水道の有収率 | ％/年度時点 | 72.1 | 0.0 | - | - | - | 平成30年度に上水道へ統合したため、指標実績はない。 |
| 131 | 水洗化率 | ％/年度時点 | 44.0 | 57.6 | 46.7 | 81.0 | B | 各年度の目標には達しないものの、着実に水洗化率の向上が図られている。 |
| 132 | 個人設置型浄化槽の設置基数 | 基/年度時点累計 | 3,990.0 | 5,003.0 | 4,445.5 | 88.9 | B | 各年度の目標には達しないものの、設置基数は着実に増加している。 |
| 133 | 入港船舶数 | 隻/年 | 5,677.0 | 6,000.0 | 4,608.8 | 76.8 | B | 令和2年度以降、コロナ禍による入港船舶数の減少が見られる。 |
| 134 | 光インターネットケーブルの整備 | 町/年度末時点累計 | 6.0 | 8.0 | 6.0 | 75.0 | B | 4年間平均の達成率評価はBだが、令和3年度に市内全域に光ファイバ網を構築を完了した。 |
| 135 | 市ホームページのアクセス件数 | 件/年度 | 2,718,545 | 3,000,000 | 13,837,615 | 461.3 | A | 平成30年度以降、シティプロモーションの成果、市民の情報獲得手段の変化から、市ホームページの閲覧数が大幅に上昇した。 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 基本柱７　基盤整備：評価構成比 |  | ◎ 基本柱全体としては、評価A、評価Bの合計が73.7％と、半分程度の達成でした。◎ 情報基盤の分野では、令和３年度に市内全域に光ファイバ網が整備され、また市ホームページ閲覧数は、当初目標以上の達成状況となりました。◎ 一方、景観形成に関する取組は、支援要件が厳しいこともあったことから目標を達することができなかった。 |
| 目標値 | 実績値（件） | 構成比（％） | A+B判定（％） |  |
| A(達成率100％以上) | 4 | 21.1 | 73.7  |  |
| B(達成率75％以上～100％未満) | 10 | 52.6 |  |
| C(達成率50％以上～75％未満) | 2 | 10.5 |  |  |
| D(達成率25％以上～50％未満) | 0 | 0.0 |  |  |
| E(達成率25％未満) | 1 | 5.3 |  |  |
| 判定不能 | 2 | 10.5 |  |  |
|  | 19 | 100.0 |  |  |
|  |  |  |  |  |

　 |

基本柱8



|  |
| --- |
| **基本柱８　協働行政** |
|

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 指標番号 | 指　　　　標 | 単位 | 基準値（H28） | 令和4年度目標値 | 平成30年度～令和3年度平均 | 評価 | 評価の理由 |
| 実績値 | 達成率 |
| 136 | 市政懇談会の開催回数 | 回/年度 | 4.0 | 4.0 | 2.5 | 62.5 | C | 開催方法を全市民対象から分野別の懇談会へ変更した関係で開催回数が減となった。 |
| 137 | 市政提案箱への投書件数 | 件/年度 | 50.0 | 50.0 | 234.0 | 468.0 | A | 市ＨＰ上で気軽に投書できる環境が整ったため |
| 138 | 協働のまちづくり市民活動支援事業の実施団体数 | 団体/年度 | 1.0 | 2.0 | 1.5 | 75.0 | B | 各年度2件を目標としているが、相談・申請が1件のみの年度があった。 |
| 139 | 自治会活動支援事業の実施自治会数 | 自治会/年度 | 427.0 | 427.0 | 427.0 | 100.0 | A | 全ての自治会が、自治会活動支援事業を活用した事業を実施した。 |
| 140 | 市政出前講座の開催回数 | 回/年度 | 27.0 | 30.0 | 30.8 | 102.5 | A | 要請に対して対応するため年度により開催回数にばらつきがあるが、令和2年度以降はコロナ禍により要請回数が少なくなった。 |
| 141 | 人材育成事業補助金活用者の人数 | 人/年度 | 15.0 | 25.0 | 5.5 | 22.0 | E | 申請に対する補助金交付のため年度により実績にばらつきがあるが、令和2年度以降は、コロナ禍により市民活動が抑制されたことから、活用の機会がなかったことによる。 |
| 142 | 広報紙での人権啓発回数 | 回/年度 | 10.0 | 10.0 | 6.5 | 65.0 | C | 相談会の開催回数に応じて広報紙周知を行っており、相談会の開催を年10回開催しなかったため、目標に達しなかった。 |
| 143 | 人権啓発イベント実施回数 | 回/年度 | 0.0 | 1.0 | 0.5 | 50.0 | C | 定期的に参加・集客型の人権啓発イベントを開催できなかった。 |
| 144 | 広報紙・ホームページでの男女共同参画啓発回数 | 回/年度 | 2.0 | 3.0 | 2.5 | 83.3 | B | 年間３回を予定していたが、男女共同参画の推進懇話会の活動状況の掲載による啓発を行っているため、懇話会の開催回数に応じた掲載回数となり、実績が少ない状況となった。 |
| 145 | 審議会における女性委員の登用率 | ％/年度末時点 | 18.8 | 33.3 | 20.3 | 61.0 | C | 審議会改選時期に女性委員登用を呼び掛けているが、公募や組織推薦の結果から、目標に達しない審議会があった。 |
| 146 | 女性人材バンクからの審議会委員登用者数 | 人/年度末時点累計 | 19.0 | 30.0 | 13.5 | 45.0 | D | 審議会改選時期に照会に応じているが、バンク掲載本人の都合や各審議会における選出条件等により、目標に達しなかった。 |
| 147 | 各種相談会の実施日数 | 日/年度 | 24.0 | 24.0 | 22.3 | 92.7 | B | 令和元年度までは計画どおり実施していたが、令和2年度以降は、新型コロナ感染拡大防止の観点から、一部中止した相談会があった。 |
| 148 | 地籍調査の進捗率 | ％/年度末時点累計 | 87.0 | 95.0 | 92.6 | 97.5 | B | 4年間の平均達成率評価はBだが、各年度の目標に対する実績は達成している。 |
| 149 | 市職員能力アップ研修の受講者数 | 人/年度 | 337.0 | 310.0 | 354.5 | 114.4 | A | 新型コロナ感染拡大防止対策の観点から令和2年度は講義形式の研修を中止したが、オンライン形式の研修が普及したため、令和3年度以降は再び目標を達成することができた。 |
| 150 | 人事評価制度説明会（評価者・被評価者） | 回/年度 | 2.0 | 2.0 | 2.5 | 125.0 | A | 令和元年度は制度運用初年度であったため予定以上の研修会を開催したことによる。 |
| 151 | 経常収支比率 | ％/年度末時点 | 84.4 | 97.1 | 86.6 | 112.2 | A | 計画的な繰上償還により公債費が抑制されたため |
| 152 | 実質公債比率（3ヶ年平均） | ％/年度末時点 | 7.3 | 10.7 | -2.4 | 100.0 | A | 計画的な繰上償還により公債費が抑制されたため |
| 153 | 地方債現在高 | 百万円/年度末時点累計 | 22,510.0 | 23,281.0 | 21,672.3 | 107.4 | A | 計画的な繰上償還により地方債残高が減少したため |
| 154 | 市税現年分収納率 | ％/年度末時点 | 98.6 | 99.0 | 98.7 | 99.8 | B | 滞納者に対して早期に接触し納税相談や催告の結果、ほぼ達成した。 |
| 155 | ふるさと応援寄附金 | 千円/年度 | 208,122.0 | 500,000.0 | 655,900.3 | 131.2 | A | 前期基本計画の目標は達成したものの、返礼品の上位を低価格が占めているため、寄附額は伸び悩んでいる。 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 基本柱８　協働行政：評価構成比 |  | ◎ 基本柱全体としては、評価A、評価Bの合計が70％と、半分程度の達成状況です。◎ 持続可能な財政運営に関しては良好な達成率でした。◎ 人権尊重・男女共同参画に関しては、コロナ禍による相談会・講演会中止等により目標に達しない指標が多くありました。◎ 審議会への女性の登用に関しては、目標に達していない状況が続いています。 |
| 目標値 | 実績値（件） | 構成比（％） | A+B判定（％） |  |
| A(達成率100％以上) | 9 | 45.0 | 70.0  |  |
| B(達成率75％以上～100％未満) | 5 | 25.0 |  |
| C(達成率50％以上～75％未満) | 4 | 20.0 |  |  |
| D(達成率25％以上～50％未満) | 1 | 5.0 |  |  |
| E(達成率25％未満) | 1 | 5.0 |  |  |
| 判定不能 | 0 | 0.0 |  |  |
|  | 20 | 100.0 |  |  |
|  |  |  |  |  |

　 |